

2018/12/3

2019年Section支援費 管理リスト

申請番号	申請月日	支部	事業種	名称/題目	開催期間	申請金額	決定金額	審議状況	実施日	報告書提出日	振込日	振込金額	備考	支部別 2019年決定額	
2019- 1	2018/11/19	関西	Award	総会における各種メダル、学生研究奨励費支援	2019/2/22	148,000								札幌	0
2019- 2	2018/11/19	関西	Award	2018 Supporting Friend of IEEE MGA Award授賞式	2019/2/22	100,000								仙台	0
2019- 3	2018/11/19	関西	シンポジウム	SB, LMAG合同プレーンストーミング大会	2019/9月	30,000								信越	0
2019- 4	2018/11/19	関西	シンポジウム	Kansai WIE Symposium	2019/10月	100,000							2018-2	東京	0
2019- 5	2018/11/19	関西	Award	立命館 SB 英語プレゼンテーション大会	2019/11月	130,000							2018-3	名古屋	0
2019- 6	2018/11/27	広島	シンポジウム	第21回IEEE広島支部学生シンポジウム (HISS)	2019/11/1	100,000							2018-6	関西	0
2019- 7	2018/11/28	仙台	その他	IEEE Sendai LMAG 設立記念イベント	2019/未定	150,000								四国	0
2019- 8	2018/11/20	名古屋	Award	IEEE名古屋支部学生奨励賞	2019/1月	90,000							2017-2/2018-7	広島	0
2019- 9	2018/11/20	名古屋	Award	IEEE名古屋支部国際会議研究発表賞	2019/3月	125,000							2018-8	福岡	0
														合計	0
					合計	973,000	0					0			

2019年MAW申請

	申請月日	事業種	名称/題目	開催期間	申請金額	決定金額	審議状況	実施日	報告書提出日	振込日	振込金額	備考
MAW		仙台			800,000							

(IEEE JC理事会報告)

IEEE R10 SYWL Congress2018参加報告

2018. 11. 27

IEEE Tokyo Young Professionals Chair 鈴木麻由美

IEEE Japan Council YP Coordinator 西宮康治朗

IEEE Japan Council WIE Past Chair 矢野絵美

1. 概要

IEEE R10 SYWL Congress2018が、2018年8月29日（木）～9月2日（日）の5日間、バリ（インドネシア）で開催された。この会議はIEEE R10主催で、IEEE会長やR10 Directorをはじめとしたボードメンバ、アジア各国のAffinity Groupメンバ（SB、YP、WIE、LMAG）らが参加して、盛大に行われた。

さらに、本Congressの前日には、Entrepreneurship Catalysts Workshopが行われた。本Workshopは、R10内でEntrepreneurship Committeeを作ることを目的に開催された。参加者それぞれのEntrepreneurshipの状況を共有し、R10においてどのように起業をサポートしていくべきかについて議論が行われた。

(1) スケジュール [*詳細スケジュール](#)

<Entrepreneurship Catalysts Workshop>

29th August

09:30 Welcome and objective of the workshop: Rajnish Gupta

Briefing on the IEEE Entrepreneurial Activities: Nivas Ravichandran

10:00 Section Presentation on Entrepreneurship Plans & Concerns: All Participants

12:30 Networking Lunch

14:00 A sustainable Model for Entrepreneurship: Dr Amit Kumar

15:00 Moving Forward - How IEEE R10 can Help? : Discussion

Roadmap for 2019 (R10) - Discussion

17:00 Closing

<R10 SYWL Congress>

30th August

17:00 Opening Ceremony

31st August

08:00 Keynotes

11:00 Parallel Track (Student, YP, WIE, LMAG)

18:00 Award Night

1st September

08:00 Talks

14:00 Parallel Track (Academia, Industry, Humanitarian, IEEE Activities)

17:30 Cultural Night

2nd September

08:00 Talks

11:00 Closing Ceremony

(2) 参加者

参加者総数：300+名

日本からの参加者：22名

【SB】

札幌支部：露口颯（北大）

仙台支部：笹沢椋太（東北大）

信越支部：Kelvin Lai Siong Ong（信州大）

東京支部：庄司拓句（東京農工大）、MOHAMMAD MIKAL BIN AMRUL HALIM GAN（明治大）、
中村文香（横浜国大）、小野寺俊（青学大）

関西支部：新瑞徳（京都大）

福岡支部：亀崎太一（熊本大）

【YP】

東京支部：西宮康治朗（青学大/JC YP）、鈴木麻由美（日立/東京YP Chair）、竹村龍一
（東京YP）

名古屋支部：鈴木拓央（愛知県立大/名古屋YP Chair）

【WIE】

JC：稲森真美子（東海大/JC WIE Vice Chair）、矢野絵美（リコーITソリューションズ/
JC WIE Past Chair）

【LMAG】

東京支部：高野忠（東京LMAG Vice Chair）

【Member】

信越支部：香山瑞恵（信州大）

四国支部：吉田真一（高知工科大/四国支部Secretary）

【ExCom Member】

福田敏男（名城大/IEEE President-Elect）

西原明法（東工大/R10 Director-Elect）

小菅一弘（東北大/IEEE TAB Vice President-Elect）

青山友紀（JC LMAG Coordinator）

2. 主な内容

- Entrepreneurship Catalysts Workshopでは、起業家をどう支援するか、また、なぜIEEEがサポートする必要があるかについて議論が行われた。議論の主なポイントとして、起業するまでをサポートするのではなく、起業した後、生き残っていく為のサポートも必要であるとの意見が上がった。その為のMentorshipの制度を充実させる事が最も重要であるという考えが共有された。特に、失敗した後にまた再度チャレンジ出来る環境を整える事や、起業した後の会社の継続率なども統計的に調査をする必要がある事も議論された。最後に、R10 Entrepreneurship Committeeの一環として、それぞれが実行可能な業務について役割分担をして、今後の活動に繋げていく体制を整える必要があるとの認識を共有した。
- 今回のSYWL Congressは、” Collaborative Innovation for Society Development”をテーマとし、各支部の最新の取り組みや課題をシェアする会議となった。インドネシア政府やデジタルサービス会社の社長とIEEE Presidentらとのテーブルトークなど幅広い情報のシェアが試みられた。
- YPセッションでは、鈴木がTokyo YPの活動紹介を行った。他には、バンガロールとバングラデシュから活動紹介が行われた。発表を行った支部はNivas氏により依頼された。R10の中で最も活発な3つの支部が選ばれたといえる。リスケジュールにより、昼食時のポスターセッションが終了しないまま、Tokyo YPの発表となったため、冒頭では聴講者数が少なかった。
- YPセッションの後半では、異なる国のメンバでチームを作り、YPボランティアのメリットを高める方策について議論し、発表を行った。竹村のチームでは、就職希望者を対象にIEEEの人的ネットワークを活用した進路アドバイスサービスを提案し、Global YP teamによる審査により、7チーム中1位となった。
- WIEセッションでは、Malaysia, Bangladesh, Hong Kongなどの活動がアクティブなSectionでの事例紹介があり、日本からもJapan SYWL Workshop等を通じて実践してきた特に「LMAG」を含めた若手・女性・Lifeメンバーのコラボレーションの重要性について矢野が紹介した。講演の中で、Tokyo LMAGの高野先生からもLMAGとしての視点でお話いただき、非常に盛り上がった。
- SBセッションでは、SBの活動の意義やコミュニティの広げ方、研究者としての心得などについて色々な方からお話があった。講演が終わると、各国SBの代表が積極的に質問を行い、活発な議論が行われていた。また、いくつかのグループに別れ、与えられたテーマについての演劇をする、というグループワークも実施された。テーマには、将来科学技術が発展することで起こりうる様々な問題が取り上げられていた。(Uber Air や 軌道エレベーター, 火星移住など)
- Award NightにてIEEE Region10 Young Professionals Volunteer Award - IndustryをTokyo YP Chairの鈴木が受賞し表彰された。加えて、2017年度に受賞したIEEE Region10 Young Professionals Volunteer Award - Academia(西宮)とIEEE R10 Young Professionals Affinity Group Award(東京YP)の2つの賞についても表彰とプラーク授与が行われた。
- Cultural Nightでは、日本からの参加者全員で、日本文化の紹介と三線演奏と踊りによるステージショーを行った。非常に盛り上がり、踊りを通して日本の参加者とR

10内の各国とのネットワークの深さがうかがえた。今後もこれらのつながりをより強化していきたい。

3. 所感

・鈴木

今回は、YPセッションにて口頭発表を行う機会をいただけたことから、誰よりも印象に残ることを一番の目標として参加した。また、Award Nightにて東京支部に対して3つの賞の表彰が行われたことから、R10をリードするYPとして印象つけることができたと思う。ネットワーキングも積極的にいき、スリランカとglobalな取り組みを議論開始する運びになるなど、貴重な経験および人脈を得ることができた。

昨年Section Congressに続き、IEEEでglobalに活躍している参加者と話すことで、自身の視野と可能性が広がる貴重な経験を得ることができた。また、今回このようなイベントに初めて参加した竹村が、日に日にIEEE活動への興味関心を強くし、積極的に他国の参加者と活動について議論を通して成長していく姿に感動した。ぜひ若い世代にこそIEEEの国際的なイベントに参加し、よい経験を得てほしいと考える。

・竹村

刺激が多い5日間であった。文字で書くと月並みだが、多様な価値観に触れ、自身を違う角度から見つめなおす良い機会であった。この「刺激」こそ、IEEE ボランティアに参加する魅力の一つだと感じる。ぜひ、他のメンバにも体験を共有していきたい。

・西宮

R10 SYWL Congressへの参加は今回で3回目となるが、毎回アジアのエネルギッシュなメンバー達との交流で大変大きな刺激を受けている。

今回のCongressでは特に日本の存在感をしっかりとアピール出来たと思う。3年前のスリランカでの初参加の時は、「日本」という国名だけでアジアの中では特別視してくれているような感じを受け、多くの人からJapanは凄いなと言われた。しかし実際にCongressの中での日本の存在感は自分としては十分にアピール出来たとは言えなかった。それはつまり、過去の日本の先人達の恩恵に預かっているだけであり、若者がこのままではせっかく築かれたその日本というブランドもすぐに廃れるのではないかと、とても心配になった。しかしその後、日本国内でのSB, YP, WIE, LMAGの活動の活性化により、徐々にR10内でもその活躍が認められ、今回のCongressにおいて日本のYPが総計3個の賞を受賞したり、Cultural Nightで日本文化を存分に発信したり、「日本」というブランドに頼る事なく、我々若手自身の力でしっかりと存在感をアピール出来たのではないかと実感した。これからも、国内に留まらずしっかりとグローバルな世界も意識した上で活動の幅を広げていき、R10内、さらには世界においても日本の存在感をしっかりとアピールできるように努力していきたいと思う。特に後進の育成に力を注ぎ、今回の成果を単発で終わらせる事なく次に繋げられるようにしていきたいと思う。

・稲森

今回はJC WIE Vice Chairとして本Congressに参加した。

WIEセッションではR10に所属する各SectionのWIEメンバーと交流することができ、JC W

IEが主催するInternational Leadership Summit 2018 Tokyoの宣伝ができた。この時に出会った何名かは実際にSummitに参加してもらえたためとても大きな収穫があった。R10に所属するWIEはとてもアクティブであり、どのSectionも様々なイベントを行っている。今回はその各セクションの1イベントを紹介するWIE Poster Contestにも出展し、JC WIE矢野さんと共に会場で説明を行った。残念ながら受賞はできなかったが、他セクションの活動について情報を得ることができ大変参考になった。

また現在SAC東京支部のVice Chairを務めていることから、各SBの学生とR10での連携について話をした。特にマレーシアの学生からは協力の依頼があり良い議論ができた。今後もJC WIEの活動が他セクションからも認識されるよう、積極的にR10 Congressなどグローバルなイベントに出席しアピールしていきたい。

・矢野

私はすでにR10 SYWL Congressに参加経験があったため、今回はR10のみなさんに日本のSYWLの連携事例を紹介や自分がIEEEでの活動を通じて得てきたものを共有したいという意思をもって参加した。LMAGの皆様にもご協力をいただき、日本での活動のアピールと、世代や分野を超えて多様なメンバーがそれぞれの特性を生かして協力しあうことのメリットを紹介することができた。さらに、R10 Excomのみなさん、Indonesia Sectionのみなさんをはじめとして、各国からの代表者のみなさんとの意見交換や交流により、今後につながる人脈を強化することができた。R10 SYWL Congressのように数日間を密にFace to Faceで語り合える機会は非常に貴重であり、この機会を次につなげていくことが非常に大切であると考えている。参加によって刺激を受けたYPやSBの仲間と一緒に日本の各地域での活動をさらに活性化させていきたいと思う。

・Kelvin

今回は信越支部にSBを立ち上げを計画しているため、信州大学のカワモト先生の推薦により、はじめてSYWL Congressに参加した。IEEE会員になるのは教授や研究者で、学生会員はコンファレンスに参加するだけのイメージを持っていた。Congressでは、R10の学生、ベンチャーから大企業にて様々な分野活躍されているYP、WIE、LMAGに出会って、IEEEに対するイメージが変わった。

今回はSBとYPトラックに参加した。IEEE会長から学生へのメッセージの中、次世代をリードするために欠かせないスキル、情熱的に語った。また、R10に行われているイベントやプロジェクトを紹介くださり、今後にSBを盛んで活動するように、会員募集と様々な活動計画には非常に参考になった。

Congress中、学生の間は特に共同研究の話はなかったが、そこでの出会いによって今後はR10には、学生の間にも国境を越えてより活発的にボランティア活動に参加しながら、自分自身の技術力も高められる学会になると思う。

・庄司

今回、初めてこういった国際的なイベントにIEEEメンバーとして参加した。

参加の目的は、海外のSBの活動を知ること自分たちの活動の参考にする、

というものであったが、SBの方だけでなく、その他セクションの方のお話を聞く機会も多かったため、この先のキャリアを考える上でも大きな意味をもつイベントだったと感

じている。しかしながら、やはり一番刺激を受けたのは海外のSBメンバーと交流した時であった。本Congressでは、何度か他国のSBメンバーと交流する機会があったのだが、海外SBの積極性、活動の多様さ、コミュニティ形成能力の高さには強い衝撃を受けた。農工大SBのChairとして、この経験を共有し、今後の活動に活かしていくつもりである。

・笹沢

東北大学SBの活動をさらに活発化するために、他国SBとの繋がりを持ちアクティビティの共有を行うことを目的に参加した。本イベントでは、学生間でのポスターセッションやグループディスカッションなど活発な交流を促す場が多く用意されており、それらを有効に活かすことで情報共有はもちろんのこと、学術的な討論や英語でのコミュニケーションなど様々な知識・経験を得ることができた。今後は、今回得た繋がりを活かしたアクティビティの企画や持続的な繋がり維持がSBとしての課題となる。

・露口

北海道大学SBとしては4年前にも参加していたこともあり、今回の参加の足がかりとなった。目的としては、R10に属する各国のSBと情報共有することによって、北海道セクションの他の大学でのSB立ち上げを促すことである。そして個人的には人間の輪を広げることであった。いざ参加してみると、言語の距離感だけでなくSBとしての行動力の差を実感した。SBとしての規模を表すかのように活発に情報発信していることに気付かされた。今後としては他の大学に交流会などのイベントを行い、その情報をSNSなどで拡散することで、周知される環境作りに努め、SBの敷居を下げていきたいと思う。

■セッションの様子



パラレルセッションでの講演の様子 (左：鈴木、右：矢野)

■表彰

(左：西宮氏が2017年に獲得した賞の授与、右：Tokyo YPが2017年に獲得した賞の授与)



次期理事会への引継事項(案)

2018.12.4

Secretary 杉江利彦

はじめに

2019-20年の新執行部への引継事項をまとめましたので、ご報告いたします。なお、次期 Secretary への事前の引継打合せは10月より順次実施しております。

1. 定例業務

- Japan Council の Bylaws にもとづいて運営。
- 各分科会の役割について別紙を参照。必要に応じ検討を行う。
- Japan Council のホームページの更新。
- 2018年には、IEEE 本部の website、手続き等が更新されたので、留意して運営を行う。会員関連、Chapter 関連については、Japan Council のホームページに情報をアップ。
<https://iee-jp.org/activity/mdc.html>
<https://iee-jp.org/activity/chapter/officerguide.html>
- R10Meet2019 は 2019 年 3 月 2、3 日にメルボルン(オーストラリア)で開催。Section Congress は、3 年に 1 回開催され、2017 年 8 月にシドニー(オーストラリア)で開催。次回は 2020 年に開催予定。

2. 会計報告

- 各理事会で、中間報告と見通しを報告。(現在、3 回/年)進捗状況は、毎月確認。
- 日常業務の手続き(出金、入金伝票への署名など)。仕訳帳への記載と管理。
- 本部報告年に 1 回。

3. IEEE Japan Council 事務局の管理

- 事務局要員の雇用管理(雇用契約、給与支払い、公的機関への届け出など)、勤務管理。
- 安全管理。

4. 次期執行部のアクションアイテム

- Ad hoc 委員会である Long Range Strategy Committee(LRSC)の検討結果の活用と今後の方向性の検討。(LRSC 資料参照)LRSC は、Japan Council の活動を長期的視野に立ち検討する主旨で設立された委員会。
- 常に為替に留意し、今後の為替変動に対応できる予算の作成と効果的な運用。
- Section 支援費の効果的な運用。新規施策、会員価値の向上。
- IEEE 本部と国内学会との協定の更新。
- JC-WIE の支部傘下への移行。(LRSC 資料再掲)

以上

Japan Council 各委員・AG・Coordinator等の役割(現状)

2018/12/4

Secretary 杉江

	方針/目的	主な活動
Chair	支部の意思決定、運営	理事会のChair、方針決定
Vice Chair	Chairのサポート、中長期的運営戦略の策定	Chairの代理、運営サポート、LRSC Chair
Secretary	JC全般の運営、事務局運営	計画立案と運営、進捗管理、会議運営
Treasurer	会計、収支管理	経費立案、進捗管理、振込管理
【Standing Committees】		
Chapter Operations (COC)	日本国内Chapterの活動促進、支援	・ Chapter支援費分配(方針決定・申請に対する承認) ・ Chapter Award (ガイドライン更改・申請に対する承認) ・ COC会合開催(年2回) ・ Chapter Webサイト更新確認 ・ Chapter運営に関わる情報共有
Student Activities (SAC)	日本国内の SB 新設促進およびSB活動の支援、支部間連携への支援	・ SBLTW開催 ・ SB新設サポート・国内SAC/SBへの情報共有 ・ 国内共通イベントへのJC SB支援費の分配 ・ SYWL Congress、Japan SYWL WS 等の交流イベントへの参加調整
Awards (AC)	IEEE Award・Medalの受賞の促進・支援、フェローの昇格の推進	・ IEEE Awards Committee委員(選考委員)相互間の情報交換の場を提供 ・ JCAC会合開催(年1回・各賞の推薦に関するノウハウの共有) ・ 各受賞状況のアップデート
Industry Propmtion (IPC)	IEEE と企業間の連携強化、MAW(Smart Tech)サポート	・ MAWの展開 ・ 国内IEEEイベントにおける 企業の協力依頼や企業内の若手に対するIEEE の価値提供の検討 ・ IPC会議開催
【Nominating Committees】		
Nominating (NC)	JC役員の改選時の選出(選挙管理)	・ 2年毎の改選に伴う一連の運営 ・ 改選年の第一回理事会でChairを指名
【Ad-Hoc Committees】		
Long Range Strategy (LRSC)	国内IEEE 組織の持続性ある活動戦略、中長期課題の検討と理事会への答申	・ LRSC会合開催・活動戦略検討結果についてJC理事会へ答申
History (HC)	支部HCとの連携、調整・マイルストーン受賞促進・History情報周知に関わる活動	・ マイルストーン受賞に向けた支援・マイルストーン贈呈式での講演・JC HC会合開催(年1回)
【Affinity Group / Coordinator】		
Women in Engineering (WI)	・ 女性技術者、研究者の活躍増に向けた活動の企画運営 ・ 国内WIE(札幌、関西、仙台)の連携、情報共有 ・ WIE新設への支援	・ JC-WIE イベントの企画運営(JC-WIE:東京、信越、名古屋、広島、四国、福岡 6支部) ・ 支部AGとのイベント協力(Japan SYWL WS ・若手技術者のためのキャリアアップワークショップ等) ・ SYWL Congress等の交流イベントへの参加(業種、世代、ジェンダーを跨った交流)
MD Coordinator	会員増に向けた国内MDCとの連携、情報共有	・ 国内支部MDCによるベストプラクティスの水平展開・本部情報 共有等 ・ 会員のメリットの検討
YP Coordinator	国内YPの連携、情報共有・YP新設への支援	・ 支部YP設立支援、及びイベント等への参加・YP Coordinator News Letter 発行 ・ SYWL(Congress, Workshop)等の交流イベントへの支部YP 参加調整
LMAG Coordinator	国内LMAGの連携、情報共有・LMAG新設への支援	・ 支部LMAG設立支援、及びイベント等への参加 ・ SYWL Congress等の交流イベントへの支部LMAG 参加調整